

## 解答

問 1	1 厚	2 新規	3 保険	4 成績	5 訪問
6 簡単	7 直接	8 商品	9 展開	10 届	
11 班	12 姿	13 宣伝	14 縦	15 勤	

問 2 早く会いたかったから、うれしいです。

問 3 エ

問 4 弟の出来の良さをうれしく思うことで、取り柄のない自分の平凡さを意識させられ、むなく感じていること。

問 5 ウ

問 6 家族の和やかな雰囲気がかわれ始めたこと。

問 7 自分のふがいなさが両親の不仲を招いているという、思ってもみなかった事実をつきつけられて大きな衝撃を受け、激しく動揺しながら、一気に深い悲しみの淵に沈んでいる。

問 8 Aでは深く悲しみ、重く沈んでいた心が、Bでは感動と喜びで軽くなっている。

問 9 ウ・オ

問 10 イ

問 11 ウ

問 12 イ 親に放っておかれていた娘のさびしさと思い、忙しさにかまけて家庭をかえりみずにいたことを反省している。

問 13 ア 家族がごくしゃくしたのは自分のせいだと思い、不幸の責任を一身に負って絶望的な思いでいたが、自分が誕生した時の母親の喜びを知り、望まれてこの家族の一員となったのだという安心感と幸せな思いに包まれている。

## 解説

出典は、椰月美智子「ダリアの笑顔」〈光文社〉。

問 2 「保育園ではいちばん身体が小さくて、6年生になった今でも変わらない」と思っている真美は、もし自分が「早生まれ」でなかったら「早紀ちゃんみたいに明るくて笑顔の女の子」になれたのではないかと考えています。「早紀ちゃんや健介みたい」な子、「ダリアみたいに笑える子」になりたかったという真美の思いはこのあと大きく変化しますが、物語全体の流れに関係する内容ですので、冒頭や中盤の段階で答えは見えませんが、後半まで読み進み、問13、15のあたりでもう一度確認しましょう。

問 3 このあと明らかになりますが、真美の弟（健介）は「タウンントピックス」という地元の情報誌に掲載されたことで、ちょっとした有名人になっています。母親は「健介のことをほめられて、シンキのお客さんに契約を約束してもらった」し、真美は学校で「かわいい弟だね」と声をかけられた。近所で話題になるのは恥ずかしいものですが、「あらそう？」と「鼻歌まじり」で答える母親はさほど嫌がっているようには見えません（↓エ）。

問 4 「早生まれは損だ」（問2）と思っている真美は「（早紀ちゃんや）健介みたいになりたかったな」と思っています。弟をほめられるのは姉として「本心で」素直にうれしい。その気持ちに嘘偽りはありません。けれども、弟に光が当たれば当たるほど、真美は自分のことがますますふがいなく思えてきて仕方ありません。「健介はあんなに元気なのに、健介は絵が上手なのに」と思うと、「それなのに、姉の私ときたら。てんでだめ、自慢にもならない」と自分自身を否定する気持ちが強まります。優秀な弟への賞賛と何の取り柄もない平凡な自分への劣等感は裏表の関係にあります。健介に光が当たる度に、影となる真美は溜め息をつくことになりました。

問 5 先生には『もっと積極的に』『もっと明るく』『もっと自信をもって』などと、『もっと』を連発され、「それを私に伝えるお母さんの言葉のはしほし」にも「しょうがない子ねえ」という否定的なニュアンスを感じてしまう真美は、「いつでも私を『いちばん』だと言って言ってくれた」おばあちゃんを懐かしみます。「真美ちゃんはほんとうにいい子だねえ。なんでもいちばん。いっとうしよう」と言って優しく抱きかかえてくれたおばあちゃんでしたが、おとし亡くなってしまいました。自分をふがいないと思い、気持ちが沈んでいるときに「おばあちゃんに会いたいな」という「センチな気分」が強まります（↓ウ）。

問6・7・9 夕食の時間は平和に過ぎました。父親は「お母さんの作る餃子は世界一だよな」と持ち上げ、「アクリル毛糸スポンジ」を「使うのもつたいないな」と言って、編んだ真美を喜ばせます（問9↓ウ）。ところが夕食後、「なんで、あなたのところに連絡がいくのよ！」という母親の怒鳴り声が聞こえてきたあたりから、何やら陰悪なムードが漂い始めます（↓問6）。どうやら両親がけんかを始めたらしい。「みつともないなあ。俺、もう寝るわ」と我関せずの健介とは対照的に、怒鳴り声に耳をふさぎ、興奮した母親が「ドンッ」と机を叩くたびに気の弱い真美はびくびくしてしまいます。ところが、けんかは意外な方向に展開します。「お前がそういうことをするから、真美があんななんだ」という父親の言葉に真美は耳を疑います。「お前がいつもガミガミ言ってるお前に渡してきたじゃないか」。真美は父親の目に映っていた自分の姿を知って大きな衝撃を受け、激しく動揺します。真美は「早生まれ」の自分は何をしてもばつとしない、駄目な人間だと思っていました。けれども、それはあくまで自分の問題です。誰かに迷惑をかけているわけではなかったはずですが、父親は真美の消極的な姿勢は母親の厳しい態度に怯えているからだと言います。言ってみれば真美は被害者のようなものですが、それでも真美は両親の諍いの原因はふがない自分にあるのだと責め始めます。「私のせいだ。全部私のせい」と両親の不和の責任を感じ、深い悲しみの底へと沈んでいきます（↓問7）。母親の態度を責めていた父親でしたが、「真美の気持ちも少しは考えて」子どもに良くないに決まってるだろう」と真美を思っただけで母親を諭しますが（問9↓オ）、父親の温かい思いも悲しみに沈む真美の心には届かなかったようです。

問10 泣き腫らした真美の目に気づいた早紀ちゃんが声をかけてきました。「他の誰も私の目なんて見てなかった」のか、あるいは「気付いても言ってくれる子は誰もいなかった」中で、早紀ちゃんだけは真美の異変をに気づき、案じてくれます。しかも真美が「笑ってごまか」しても「苦手な女子みたいにしつこく聞いてこない」「私を励ますような笑顔をしてみせるだけ」の早紀ちゃんは「みんなのことをよく見て」必要な手助けをしてくれるような気が利く女の子です。鋭い早紀ちゃんの前でごまかしはきかないだろうと真美が予感していたことは「やっぱり（言われた）」ということばかりわかります（↓イ）。

問11・12 目が輝いている様子を表すときには「らんらんと」という擬態語が多く使われます（問11↓ウ）。また、早紀ちゃんに編みものを教える約束をしたときの「ちょっと恥ずかしかったけれど」の気持ちを表すことばは「なんだかくすぐったかった」か「とてもまぶしかった」のどちらか。この場合、早紀ちゃんの「ダリアの笑顔」に対する思いなら「まぶしい」となりますが、「指きりげんまん」というかわいらしい約束を交わしたことを受けていますので、「くすぐったい」が当てはまります（問12↓イ）。

問13 どうやら「昨日あのと、眠れなかった」らしい母親は、夫と言い争ったことについて一晩かんがえたのでしょう。真美が髪を短くしたのは「自分だとなかなか上手く結べな」いから。母親が働き始め、子どもたち（特に真美）を省みなくなったことの影響はこういうささいな変化に表れます。髪を三つ編みにしながら、ゆつくりと話をする母親の幸せな時間は、母親が仕事を始めると同時に消えてしまいました。母親が手伝ってくれなくなったことに文句も言わず、でも自分では上手く結べない真美は、母親に見えないところで一人泣きべそをかいていたのかもしれません。そして、母親に相談せずに自分で短く切ることにした……。今さらながらそんなことに気づいた母親は、放ったらかしにされた娘のさびしさやそれに気づかなかった自分のうかつさを思い、心を痛めています。

問2・8・14・15 放ったらかしにされていたというのに、真美は具合の悪そうな母親を気づかいます。母親が「昨日あのと、眠れなかった」のは自業自得であるのに、真美は「それって私のせいだ」とやはり自分を責めます。けれども、今日の真美は両親の口論に耳を塞ぎながら自分を責め続けていた昨晚の真美とは違います。「早生まれ」の真美は何をしてもばつとしない自分に自信を持てずにいました（問2）。「お父さんとお母さんがケンカするのも、お母さんが機嫌悪いのも」すべてはふがない自分が悪いのだと思い、深く傷つき、悲しんでいました（問8↓A）。そんな真美を一冊のノートが救います。真美が生まれたときの様子や母親の思いが克明に記された「育児日記」を読んだ真美は、自分が望まれて母親のもとに生まれたことを知り、感動します。雲一つない快晴の空の下に生まれたこと、「真の心が美しい子に育つように」という名前に込められた両親の願い、「女の子が欲しかったからうれい」という母親の思い……。一つ一つが傷ついた真美の心を癒していきます。そして、真美が予定日より早く生まれてきたことについて、母親は「早く会いたかったから、うれしいです」と書いて……。真美が自分に自信が持てない根本的な理由は早産だった結果「早生まれ」となっただけで、「保育園でいちばん身体が小さくおもしろくなかった」ところにありました。ところが、母親は自分（真美）が予定日より早く生まれたことを手放して喜び、涙を流しながら「本当に生まれてきてくれてありがとう。私のところに来てくれてありがとう！」と感謝のことばを綴っています。無条件の愛を注いでくれたのはおばあちゃんだけではないことを知った真美の心は喜びと感動でいっぱいになります（問8↓B）。生まれたばかりの真美を優しく抱き、愛おしそうに見つめる十一年前の若い母親の姿を見たことで、自分が母親から愛されているのだという安心感に包まれた真美は、少しずつ母親との心の絆を取りもどし、自分を愛し、苦勞して育ててくれた「四十一歳のお母さん」を温かい気持ちとともに労ります（問14↓ア）。